

NP020 周年記念事業

地域懇談会（下越地区）懇談会 実施報告書

◇ 開催日時：令和4年11月17日（木） 10：00～13：00

◇ 開催場所：ANA クラウンプラザホテル新潟（新潟市中央区万代5-11-20）

◇ 出席者：（主催者）NPO 理事長 高橋 猛、副理事長 渡邊 和敏（進行）
（参加者）齊木 勝、田邊 敏夫、坂井 徹、根本 晋哉、高橋 一男
白石 光夫、井上 宏、伊藤 恒彦、佐藤 暢英、斎川 正幸
（事務局）立川 達生、長谷川 哲也

※以上14名、順不同・敬称略

◇ 配付資料：「NPO 法人にいがた地域創造センターの活動実績（20年の歩み）」
（A4 両面9ページ）

《懇談会の内容》

今後のNPO活動の方向性を考えるための意見交換として開催。

- ・会議趣旨説明、資料・日程確認（事務局）
- ・主催者挨拶（高橋理事長）
- ・議題1「NPO活動の今までを振り返る（良かった点・反省すべき点）」
- ・議題2「今後の活動に向けた意見・要望・提案」
- ・自由意見交換

《主催者挨拶要旨》：高橋理事長

- ・役所の仕組み・考え方・やり方の変化、企業の経済情勢・体制の変化、それから住民の意識や考え方の時代とともに変化すればNPOの役割なり仕事も変化するのではないかと考えている。
- ・高齢化や会員の地域偏在などNPO自体の将来に向けての課題もあるので、今までの20年を振り返り、次の10年をどんな方向でNPOの事業進めればいいのかと、そんな観点でこの懇談会を開催した。

《議題1要旨》「NPO活動の今までを振り返る（良かった点・反省すべき点）」

（1）河川情報モニターについて

- ① 報告会のあとに懇親会を開いていた。現役とコミュニケーションが図れるいい機会である。
- ② 災害査定や河川維持の予算要望等に使われていると思い一生懸命、写真を撮っていた。
- ③ 河川パトが各地域により見る所が違う。点検する視点の統一の検討が必要である。
- ④ たくさんの資料の作成、担当河川の領域も広く、民間活用の検討が必要である。

- ⑤ 山あいの河川管理用通路は整備されていない。パトしている時間よりも移動している時間や終了後の車の洗車や整備が大変である。
- ⑥ 堤防天端の未舗装河川が多いため、軽トラックでないと巡視できない。

(2) 身近な社会資本の見学会について

- ① 高校生のアンケートで「非常によかった」との記述があった。
- ② 学生がみんなはきはきと話している。この研修プログラムのことを覚えてなくても、どこかに残って生かされていると感じられる。
- ③ 参加した学生とあとで会う機会があったが、あんまり印象を持ってないと言っていた。
- ④ 船の手配から見積、契約、資料づくりなどで苦労した。
- ⑤ 山の下閘門と福島潟で非常にベストな現場と思うが、かなり年数がたっており、学生が新潟地域に中心になっている。
- ⑥ 広報として継続することに意義がある。しかし、伝え方の工夫が今後の課題。
- ⑦ 社会資本の現場見学もみんなつながるが、今後、土木業界を目指す若手に対する人材確保の観点からの取り組みが、非常に重要になってくる。

(3) 地域懇談会について

- ① 参加者は賛助会員、地域整備部、建設業協会などから多くの参加があり、「またやってほしい」との意見も多数あった。
- ② 賛助会員を増やす大きな目的があったはずだが、非常に不透明である。
- ③ 賛助会員のメリットについて、中身を明確化し、進捗チェックする必要がある。
- ④ コロナの影響で、ここ数年できなかったことが残念である。
- ⑤ 賛助会員として参加して総会や懇親会に出席すれば、現役の県庁トップグループの皆さんと話ができるとの声を掛けて賛助会員を増やした。
- ⑥ 懇親会に出席する賛助会員は、非常に好意的にであり、いい会があったと言われた。

(4) 災害支援

- ① 災害支援は災害の初動対応時に業者のさばき方や若手の担当者へのアドバイスなど手伝いが NPO の役割として決めていたと記憶している。
- ② 我々も経験がないと思われるので、年 1 回程度の訓練が必要である。
- ③ 村上で災害が起こった直後から、応援すると県に声掛けはしたが、要請はなかった。

(5) 助成金

- ① NPO から助成金を出して、能代川の堤防を使った新津地域の小学生の少年記念大会（野球）を行い、身近な社会資本的な活動になった。
- ② NPO から「能代川を活かす会」の活動資金に助成金を出して、河川敷を市民農園など地域住民が社会資本整備を利活用することができた。

(6) その他

- ①NPO 総会の後半の講師に平山前知事（国際情報大学学長）、新潟交響楽団のコンサートマスターなどの、ユニークな方に頼んだ。
- ②資産表の 1,400 万は昔の土木協会からの寄付である。今後、資産とその使う形を考えていく必要がある。

《議題 2 要旨》「今後の活動に向けた意見・要望・提案」

(1) 担い手確保、育成について

- ①ターゲットを中学 2 年生にすべきと思う。日頃使う道路や川などが生活にどう生かされているか、中学生の時代に、少しでも PR できたらいい。
- ②昨今は非常に女性の進出が多い。中学生の時代に、興味を持てば、女性も集まってくれる業種になれると思う。ビデオや冊子をつくって、PR することが必要である。
- ③普通高校 2 年生ぐらいを対象に出前講座をすることが大学の進学の一つの対象にしてもらうようにすると良い。NPO で手伝いできることをやっていく。
- ④現場見学会、イベント支援などつながっているがマンネリ化しており見直しが必要。地域懇談会の中で、賛助会員に聞いて固定化したやり方を見直すようにする。
- ⑤社会資本整備計画の目的は担い手育成である。どういう層に行くかは、すごく大事だ。やりやすいところだけで、成果・目的を達成できるのか疑問である。

(2) 河川情報モニターについて

- ①75 歳以上が半数や 80 歳近い方も活動しており相当な高齢化になっている。今後、新潟地区など他地区から応援してもらわないと、同じ河川数、巡視延長等は困難である。
- ②使用してる車は、現在、社用車である。非常に小回りがきくジープタイプの軽自動車を、リースやレンタルしてほしい。
- ③未舗装の堤防が多いため普通車では困難であり、軽トラックを手配している。借り上げは謝礼を支払い、対応しているが費用の見直し等を期待している。
- ④高齢化が進んでいるとの話や他地域から応援できないかとの話もある。包括的維持管理業務委託の制度もあるし、これを普通に民間に委託にできないかと思う。
- ⑤効率化を進めるためモニタリングの ICT 化がある。県と意見交換をしながら、報告書作成やモニタリングの仕方を考える取り組みが必要である。
- ⑥このモニターを卒業した人が普段でも気軽に集える場があるとよい。ただ今の事務局は狭いので、なかなか難しいと思うが何かそんな場ができればいい。

(3) 地域懇談会

- ①賛助会員にどんなサービスをすればいいのか少し深掘りする必要がある。行政の代わりにぎりぎりの情報提供を企画すると、賛助会員は得られるものを強く感じられる。
- ②ここ数年間、コロナのために開催していないので再度復活してもらいたい。

(4) その他

- ①身近な社会資本の見学会は大変有効だと思うが印象が残っていないということがあるので、事前に参加したい人と、意見交換会をすることも必要である。
- ②NPOの目的（社会資本整備計画検討等への専門技術者の派遣等）を達成するため会員も行政から講師をまねいて勉強するという機会が必要である。
- ③直轄OBは多くの部会を持っており、部会に出るたびに多くの資料をもらい、それを会社に配る。知識を得るため部会など、会員の勉強する企画があるとよい。
- ④防災業務についても、急にそこに行って、指導してくれと言われても難しい。応援できる人を集めて勉強会をする必要がある。
- ⑤環境保全の面は今のNPOはしていない。公共施設の、ごみ拾いなど、比較的高齢でも参加できる簡単なもので気軽に参加できる活動が、環境面でもあればと思う。
- ⑥身近な社会資本整備、河川モニター、都市公園モニター、そして建設セミナーの講師派遣が定着しているので、引き続き継続してもらいたい。
- ⑦地域懇談会の他に賛助会員の方々ができるだけ参加しやすい仕組みができないかと思う。担い手育成イベントでの参加やSDGs登録企業で地域のおまつりなどは面白い。

《自由意見交換要旨》

- ①正味財産をどういう形で運用していくのか。事業計画や企画をしてもらおうとよい。
- ②地域の人に、災害やNPOの趣旨に合致する活動に対して、助成金を出せないものか。
- ③私たちの年代は社会資本がよくなってきており、今の中高校生は当たり前の時代になっている。地域で社会資本の役割という教材をつくり、人づくりやっていくとよい。
- ④河川の重要度が高いA区間が多く巡視回数はB区間などと全然違う。NPO側と地域の治水課で決めているが、再検討すればもっとNPO側が楽に巡視ができる。

《状況写真》

